



粟島をアートの島に

粟島芸術家村が開村して、はや3カ月が過ぎました。芸術家の三浦高宏さん(東京都)、山田果林さん(香川県)、井上唯さん(滋賀県)は、島民の温かさに包まれながら創作活動に励んでいます。

三豊市として初めての試みは、粟島にこれ以上ないぐらいの活気をもたらしました。

芸術家の3人は、島民とのふれあいの中で芽生えた思い、島の人々に恩返しをしたい気持ち、島で生活する中で感じつけた“粟島”を作品に込めて制作しています。

そんな作品たちは、もうすぐ完成のときを迎えます。



1 三浦さんのアトリエ 2 釣りを初体験する山田さんと井上さん 3 粟島中学校を芸術家村のアトリエに 4 ワークショップで島民が表札作り 5 作品作りの合間の一服 6 笑いの絶えない島民との交流 7 郷土料理の茶粥をいただく 8 島民もアートを体験しました

ありがとう
あなたたちが来て
島が元気になりました



～ 粟島芸術家村 Artist in Residence ～

初めて粟島に芸術家を迎えて

今月17日(金)から26日(日)まで粟島で開催される『粟島芸術家村成果発表会』に向けて、芸術家の三浦高宏さん、山田果林さん、井上唯さんと運営委員の松田悦子さん、西山恵司さんに、この事業を担当する地域振興課の伊藤睦子さんが話を聞きました。

粟島で芸術家村を取り組むにあたって、この話が来たときにどう思われましたか

松田 良かった思たな。もう30年も昔の話になるけど、西山さんといつも寄って、どうやったら粟島に人が来てくれるんやろかいって、ふたりでよう話をしようたんや。

西山 自分の商売というよりは、まあ、言うたら粟島に来てもらいたい、粟島を知ってもらいたいという思いだけやったな。

松田

ぶいぶいがーでん作つたんは、西山さんがル・ポール粟島の支配人になったとき、お客さんをなんとか呼ばんといかん。けど、泊まった次の日に連れて行くところがない。ほんで、少しでも助けになれば、島がにぎやかになれば思て作つたんや。

ル・ポール粟島が、がんばりよつたんも島のためやけん。島がなんとか活性化するように、何でもええから、できることをどんどんやってきたな。

運営委員になられて、何を一番

に考えましたか

松田

私たちは、3人が島の生活を十分堪能してくれたらそれでええと思つた。そんないい作品作つてほしいとか、思とらへん。そんな、4カ月やそこでええ作品やなかなか難しいもんや。思い出をいっぱい作つてほしい。それだけや。それが、糧となって花開いてくれることを願うだけ。

西山 まさに親心な感じやね。

これだけ島の人を迎えてもらうて、サポートして

もらうてどうですか。粟島に来る前と今とでは気持ちに変化はありましたか

三浦

一番は、外に對しての興味が増えてきたことかな。実際にモデルさんと呼んで描くってことをまったく想像してなくって、来る前は風景を描くことしか考えて

伊藤睦子さん、松田悦子さん、西山恵司さん



▲(左から)井上唯さん、山田果林さん、三浦高宏さん、

西山

芸術家が3人きたんやぞつていう、それだけでも話題になる。

松田

三浦さんと絵の具作つたり、果林ちゃんとか表札作つたり、そういう芸術家の人とふれあえたのはよかった。ほんとに充実した時間が流れたのは粟島の人とちがうかな。

地域交流というのがこの事業の目的のひとつですが、島の行事に参加してみてもうでしたか

三浦

特に祭りに参加できたのは、滞在して信頼関係があるからこそ手伝わせてもらえたので、そういった地域の文化に深いところでアクセスできたのはすごい感謝している。貴重な体験だったと思つている。

山田

運動会とお祭りに参加させてもらつて、その後に話しかけてもらう機会が多くて、お茶に呼

なかつたけど、お年寄りを描くようになった。運営委員さんが積極的にかわつていただいたことが大きいと思うんですけどね。

松田

ええ感じに変わったんかなあ。

三浦

だと思いますけどね。実際、制作自体も前より楽しくなってますし。ほんと、この島だから人をモチーフにしようと思えたのかな。

山田

私は、人見知りなんですけど、構えてたんですけど、島の人たちがどんどん話しかけてくれるんで、こんなに人って温かいと思つてなかつたんで、それが一番大きいですね。

松田

3人のなかでは一番近い丸亀から来てくれたっていうのもあるけど、島での生活はどうやった。

山田

県民性とか、方言とかいっしょやし、似てると思つてたけど、島の人たちは違つてた。島時間が流れとるし、生活のリズムがゆっくりしてて、すごい人間らしい

んでもらつたり、畑を手伝わせてもらつたりとか、そういうことがしたかったんで、それがやつとできるようになつてきた。

今後、芸術家の3人に思うこと、望むことは

松田

とにかく、帰つておいでよ。そのひと言だけ。帰したくない。

西山

そうやな。体験した人にしかわからない感動があるから、みんながまた次の人を連れてきてくれる。そういうのを楽しみにしている。

三浦

ほんとにスタジオができたらいいですけど、そういうのじゃなくとも、訪ねさせてもらつて、取材とかさせてもらいたいなと思う。あとは後輩とか同年代のアーティストとかに勧めて、粟島に投入したい。

今後もうこういふいい出会いになるように、この事業を続けていけたらと考えています。ほんと成果発表会が楽しみです。

▼問い合わせ

地域振興課 ☎ 73・3013